

お互いの理解を深める

支援を要する生徒に対して特別支援学級を開設したり、通常学級から転籍をする場合（逆も同様）は、ケース毎に教育支援委員会で検討します。支援学級開設は、予算や人的配置が必要です。保護者の要望数や生徒の状況等が開設の判断材料となります。

現在は、支援学級と通常学級の生徒と一緒に授業を受ける交流学习の時間もあります。子ども達は、幼少時より交流することで、お互いの理解も深めています。心ない言葉で相手を差別しない人権意識も以前より高まっています。また、差別事象の未然防止とともに事象発生時には学校総体で適切な対応をします。

転籍後は、個別支援を行き届かせ、発達段階に応じて適時につけなければならない力を育てます。

ご相談はお早めをお願いします。適切な支援は、生徒の可能性を開きます。

「スタートは○（丸）です」

平成31年度がスタートして、いよいよ令和元年度に移ります。

生徒を見ていますと、全体的には良い表情が多いと感じています。これは大切なことです。

「生徒の主体性を生かした活動を増やしていくこと」を職員で確認しました。先進的に「生徒会と校務分掌の段階的協働体制づくり」を推進します。このようにオンリーワン（1）、でファースト（1）な、先を見通した取組で生徒を「自立」へ導きます。

学校だよりの題名「先を読み、今を為す」にふさわしいスタートに感謝しております。生徒の皆さん、保護者・地域の皆さん、そして先生方、たいへんありがとうございます。

阿蘇の中心校としてプライドを持ち、他の学校のお手本となる＝「学習モデル」を目指しましょう。